

日本語構造伝達文法
絶対テンスと相対テンス(1)

[4-3]

絶対テンスと相対テンス(1)

この項目は『日本語構造伝達文法・発展A』のA9章、
A13章の内容に基づいています。

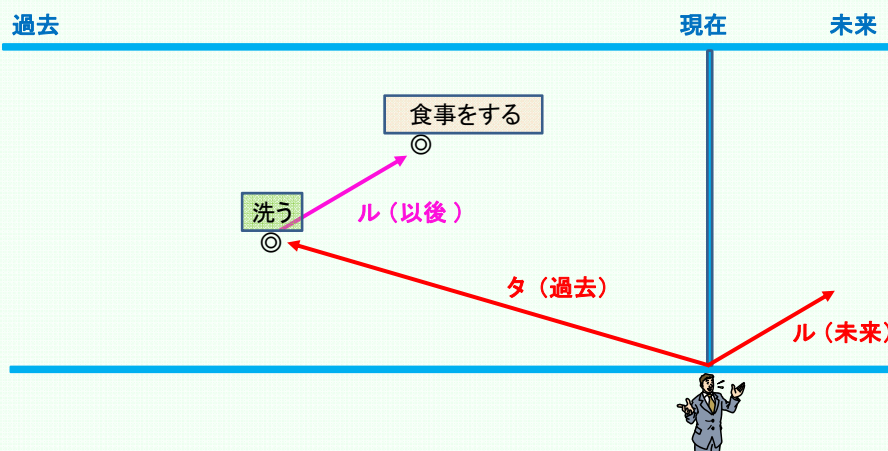
今泉 喜一
2011年 5月

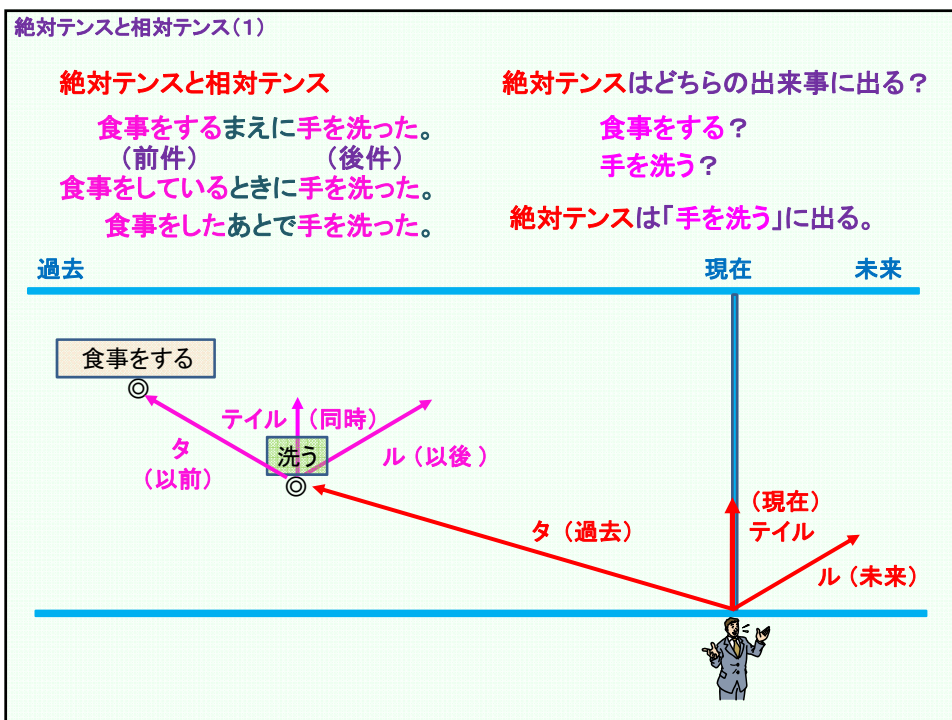
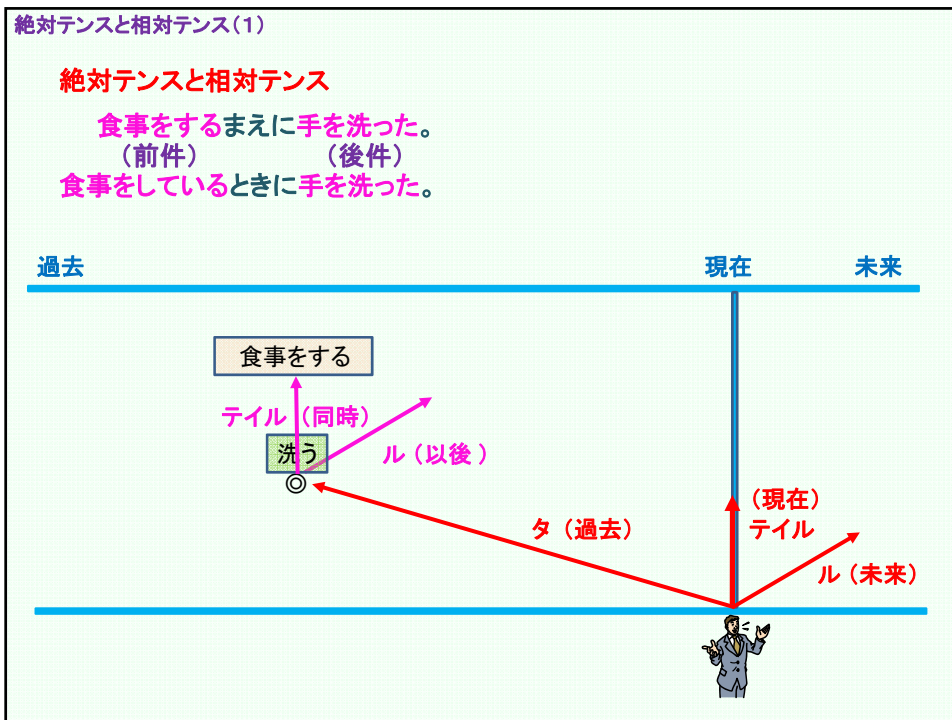
印刷:1,5,9,13-14,16-18,21-24,26,30-31,33,35,39-44 40は別印刷も

絶対テンスと相対テンス(1)

絶対テンスと相対テンス

食事をするまえに手を洗った。
(前件) (後件)





絶対テンスと相対テンス(1)

絶対テンスと相対テンス
 食事をするまえに手を洗った。(前件) (後件)
 食事をしているときに手を洗った。
 食事をしたあとで手を洗った。

絶対テンスの基準点は？
 「発話時点」
 では、相対テンスの基準点は？

過去 現在 未来

洗う

タ (過去)

(現在) テイル

ル (未来)

The diagram features a horizontal timeline with '過去' (Past), '現在' (Present), and '未来' (Future) labels. A vertical line marks the '現在' (Present) point. A red arrow labeled 'タ (過去)' points from the '現在' line to a box labeled '洗う' (wash) in the '過去' region. Another red arrow labeled 'ル (未来)' points from the '現在' line to the right. A vertical red arrow labeled '(現在) テイル' points up from the '現在' line. A small cartoon character is at the bottom center.

絶対テンスと相対テンス(1)

絶対テンスと相対テンス
 食事をするまえに手を洗った。以後 (前件) (後件)
 食事をしているときに手を洗った。同時
 食事をしたあとで手を洗った。以前

絶対テンスの基準点は？
 「発話時点」
 では、相対テンスの基準点は？
 「主文の出来事の生起時点」

過去 現在 未来

食事をする

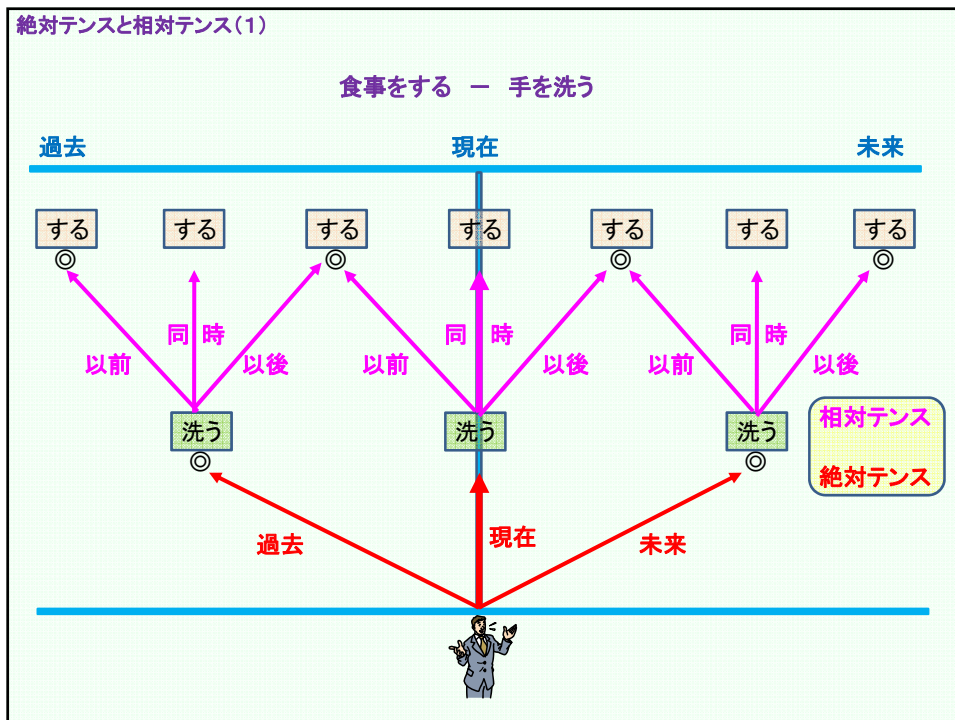
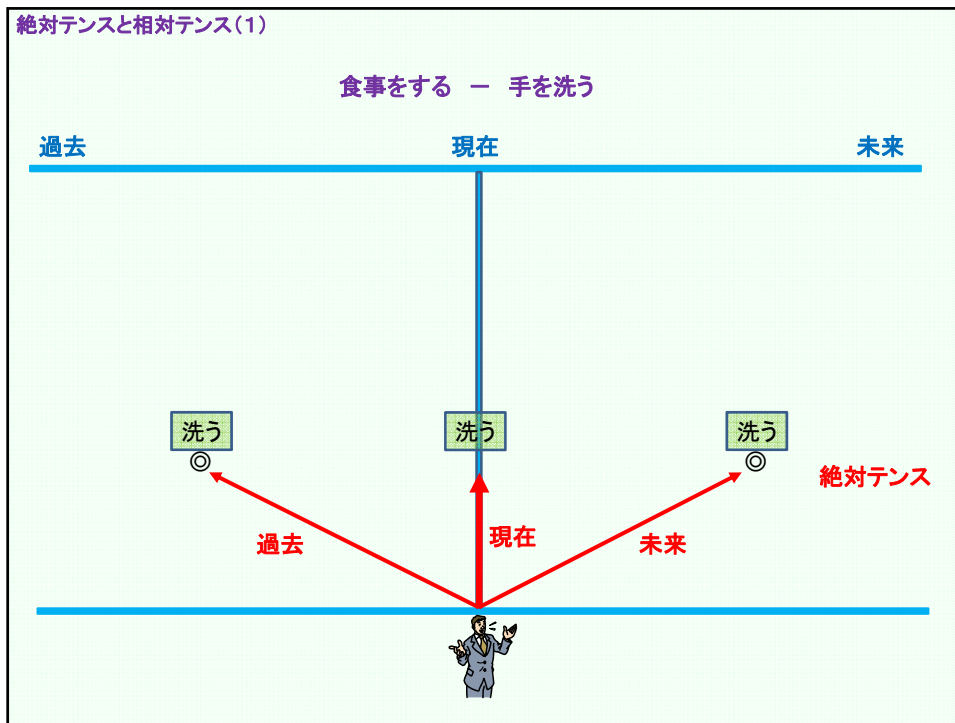
洗う

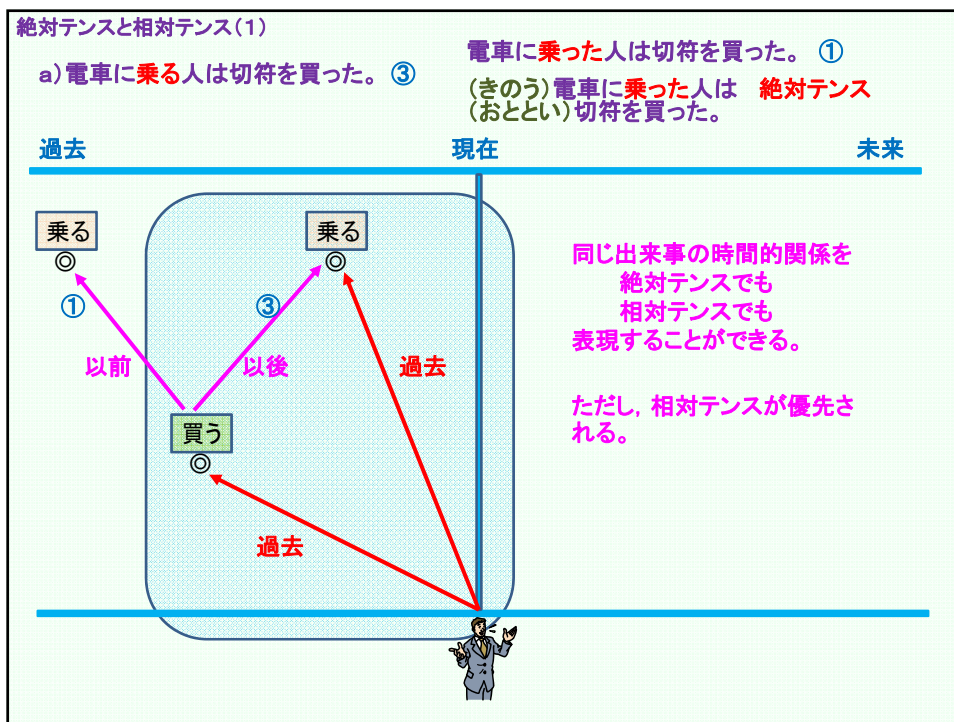
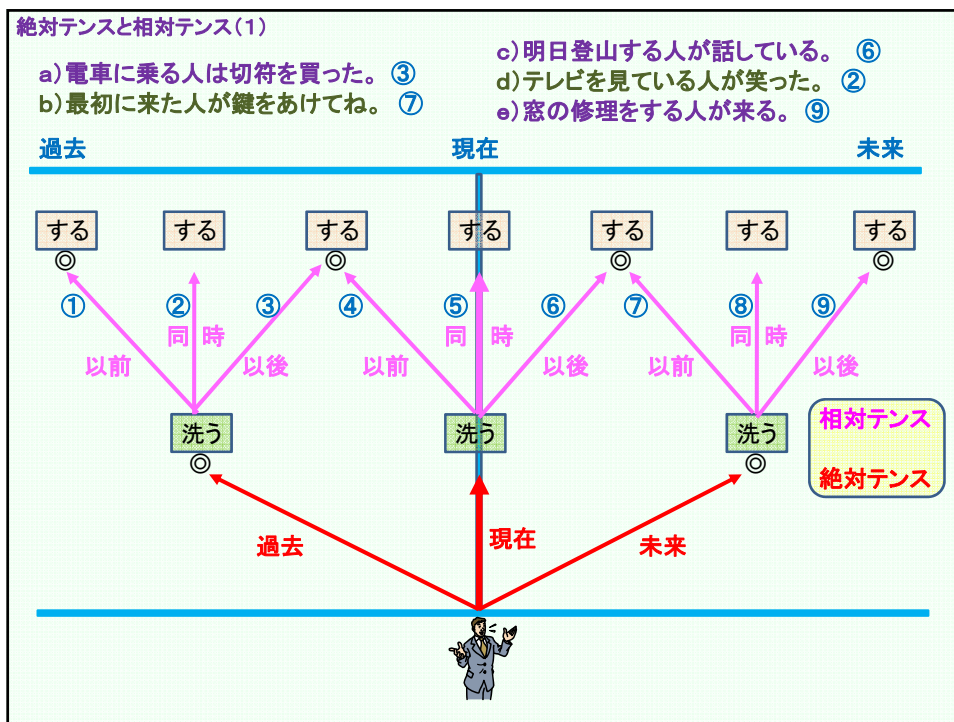
タ (以前)

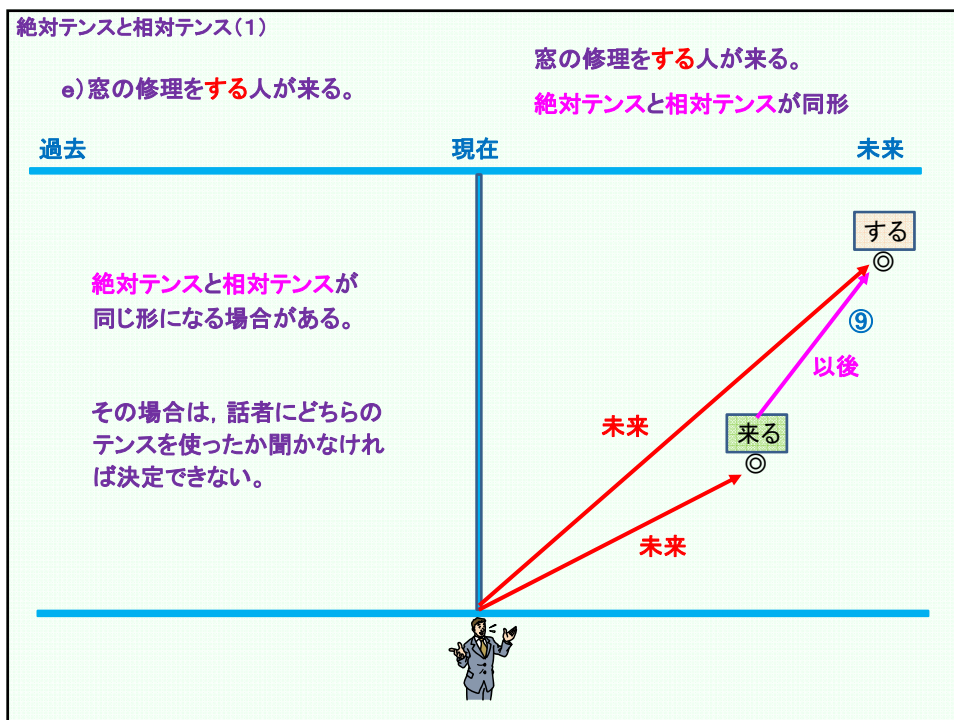
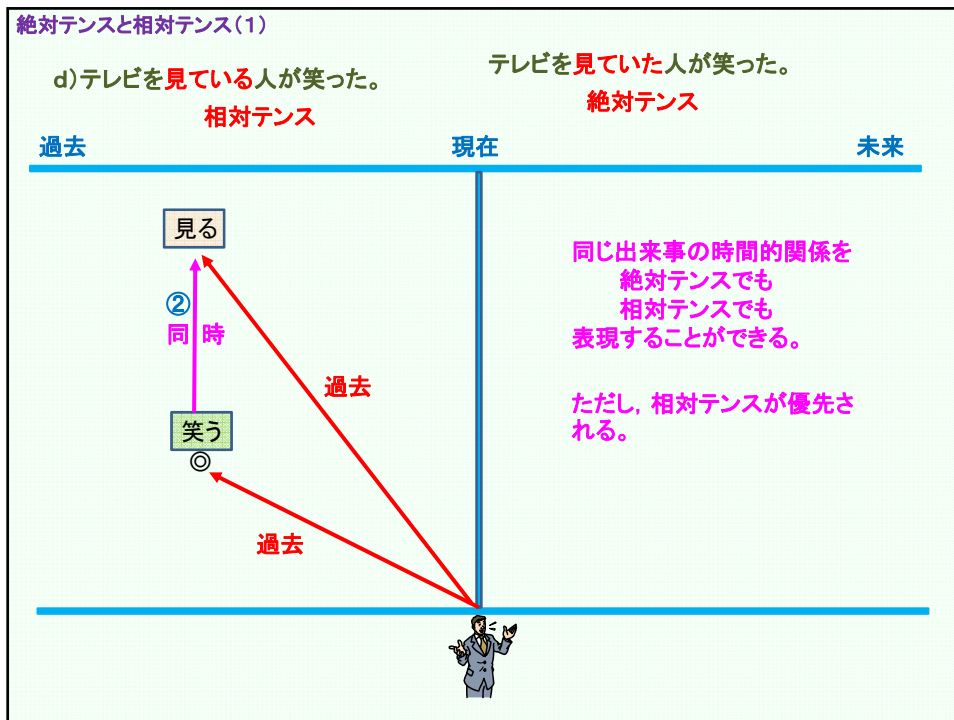
テイル (同時)

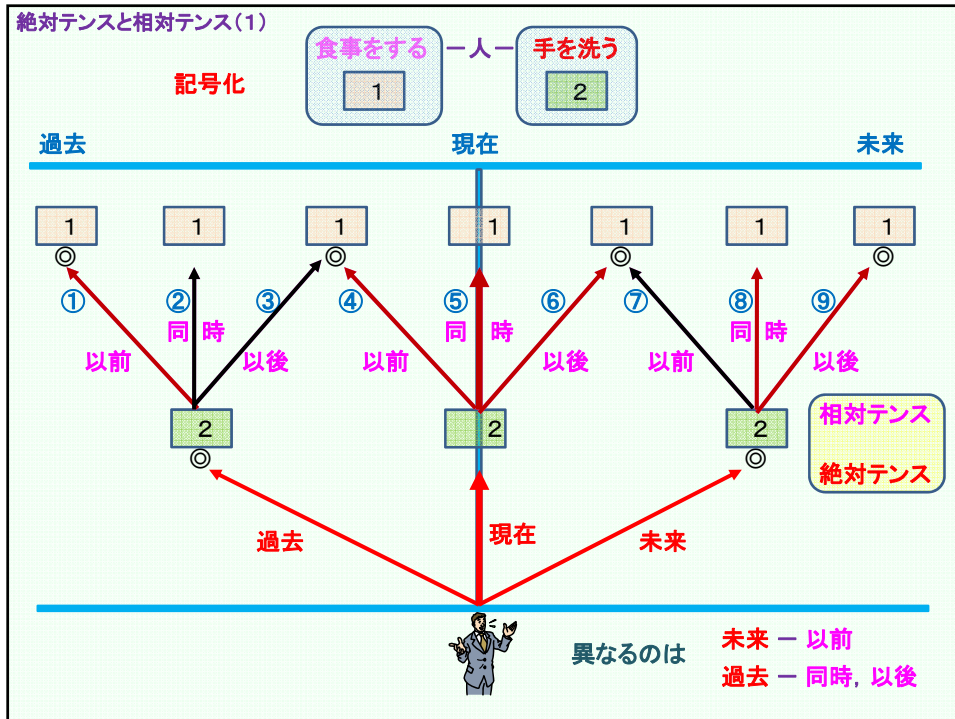
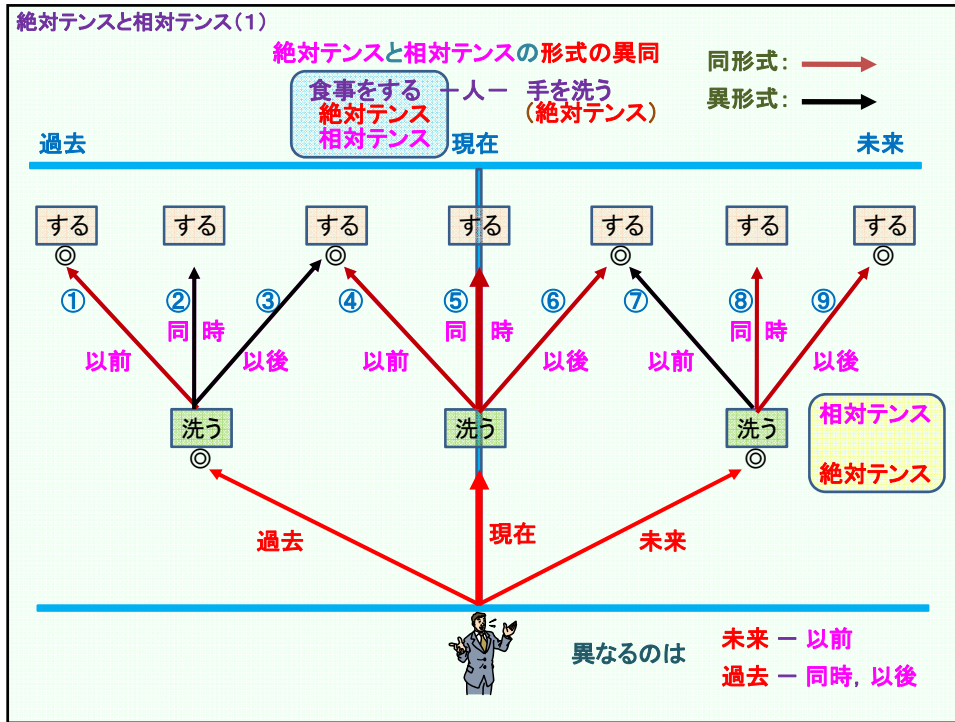
ル (以後)

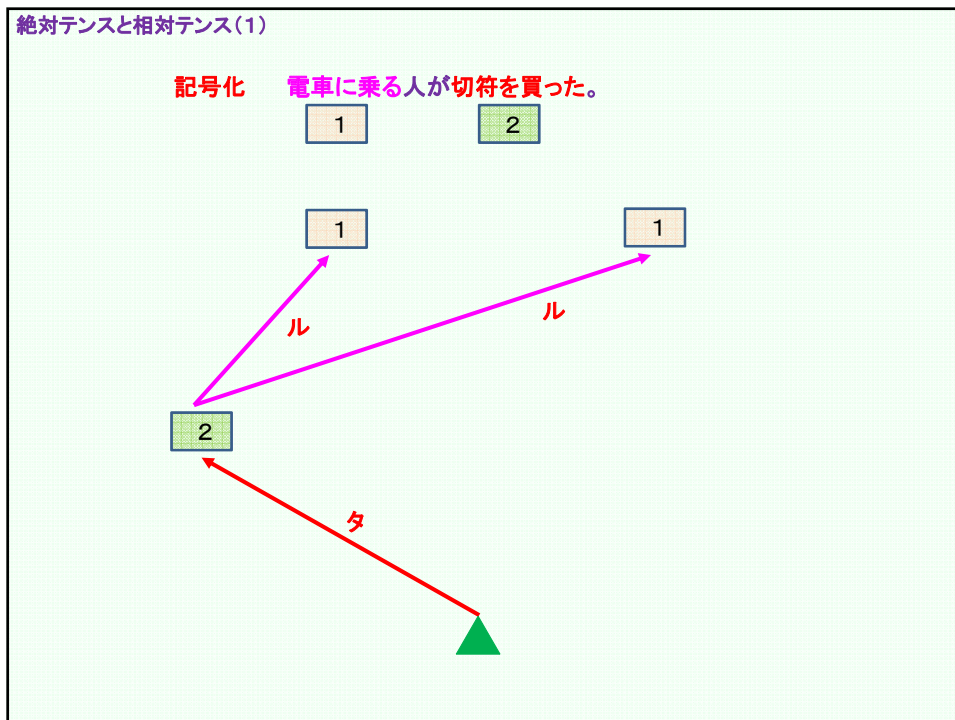
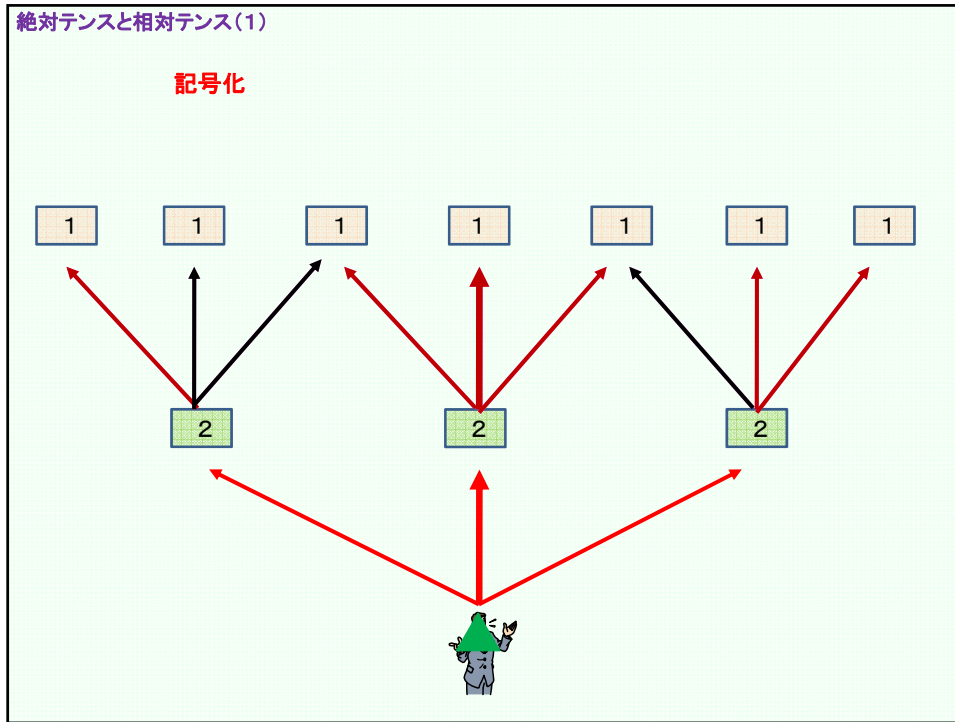
The diagram features a horizontal timeline with '過去' (Past), '現在' (Present), and '未来' (Future) labels. A vertical line marks the '現在' (Present) point. A box labeled '食事をする' (eat) is in the '過去' region. A box labeled '洗う' (wash) is also in the '過去' region, with a vertical pink arrow labeled 'テイル (同時)' pointing up from it. A pink arrow labeled 'タ (以前)' points from the '洗う' box to the left. Another pink arrow labeled 'ル (以後)' points from the '洗う' box to the right. A small cartoon character is at the bottom center.

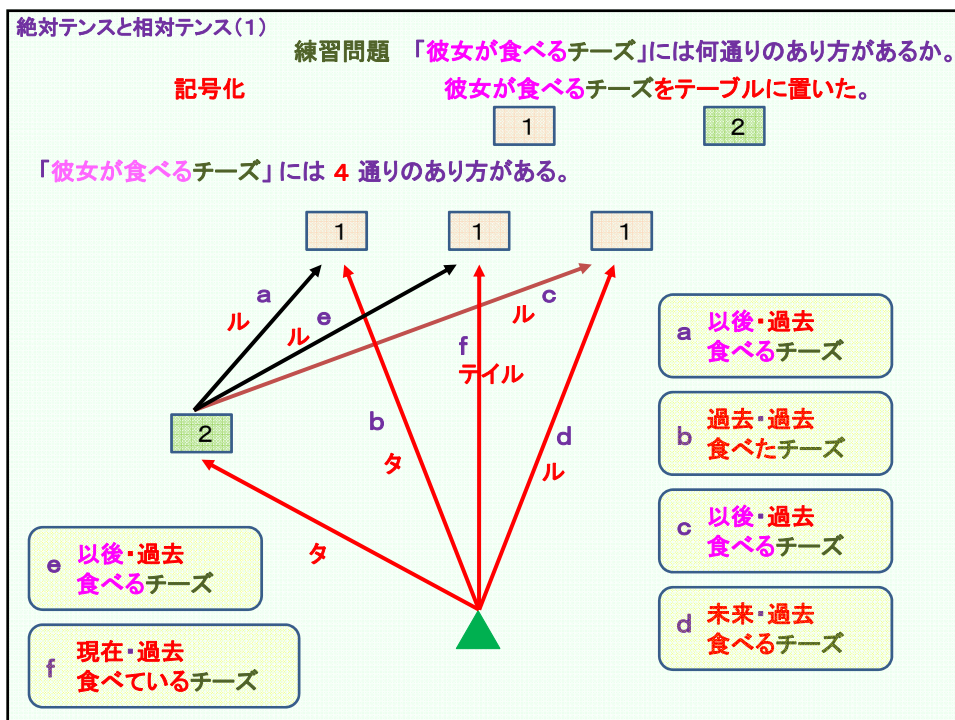
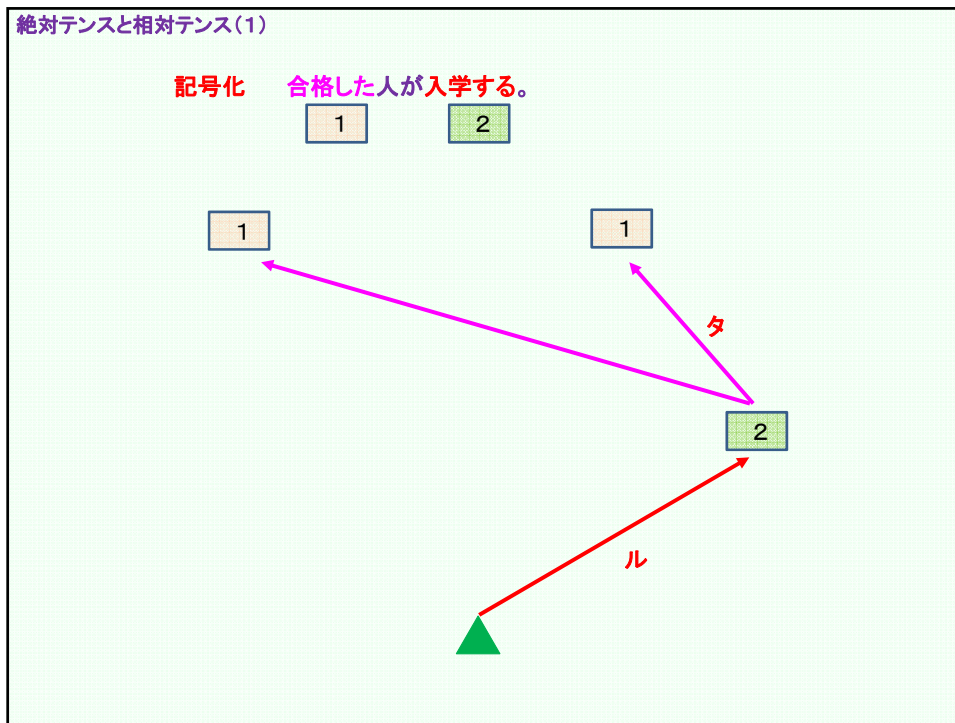












絶対テンスと相対テンス(1)

修飾属性1と主属性2の時間的位置とテンスの関係 表A13-1

		A	B	C	D	E	F	G	H
1が先に生起	絶対テンス a								
	相対テンス b								
同時 c d		(1)O (3)O 21O	12O	1(2)	(1) (3)	1O2	(1)2	O12	O(1) O(3)
2が先に生起	絶対テンス e								
	相対テンス f								

絶対テンスと相対テンス(1)

表の見方

左側で分かるように、大きく3段に分かれている。

1が先に生起する場合 / 1, 2が同時に生起する場合 / 2が先に生起する場合

1が先に生起する場合..... a と b は同じ出来事の時間関係を表している。
 a は絶対テンス, b は相対テンスを表している。
 ABは過去, CDは現在, EFGHは未来を表している。

1, 2が同時に生起する場合..... c と d は同じ出来事の時間関係を表している。
 cは絶対テンス, d は相対テンスを表している。
 Aは過去, Dは現在, Hは未来を表している。

2が先に生起する場合..... e と f は同じ出来事の時間関係を表している。
 e は絶対テンス, f は相対テンスを表している。
 ABCEは過去, DFは現在, GHは未来を表している。

太枠内では: 同じ時間関係を絶対テンスで表現したか相対テンスで表現したかが形の上で区別できる。

絶対テンスと相対テンス(1)

次のような説は正しいだろうか。「視点の原理」三原健一(1992)

ルール、タータ の場合、従属節は絶対テンスになり、
ルータ、タール の場合、従属節は相対テンスになる。

例1: 彼女が食べるテーズをテーブルに置いた。(ルータ)

[以後・過去] の場合..... Bf, Cf, Ef 相対テンス

[未来・過去] の場合..... Ee 絶対テンス

例2: 電車に乗る人が切符を買う。(ルール) Ge 絶 Gf 相

例3: 合格した人が入学した。(タータ) Ba 絶 Bb 相

例4: 富士山に登る人が来た。(ルータ) Ee 絶 Bf, Cf, Ef 相

例5: 許可された人が入室する。(タール) Ea 絶 Eb, Fb, Gb 相

結論

「視点の原理」は表中の太枠の中(絶対・相対の形式が異なる場合)のみで
成立するものであり、全体からみれば成立しないことになる。



絶対テンスと相対テンス(1)

まとめとして 自分でやる課題 4題(記号でも表示)

1: a) 事故で助かった人はここで水を飲んだ。

b) 事故で死亡した人はここで水を飲んだ。

2: a) 一位になった人にギターを贈る。

b) 一位になった人にギターを贈った。

絶対テンスと相対テンス(1)

まとめとして 自分でやる課題 4題 (記号でも表示)

3: 富士山に登った人はあさって帰る。

4: a) 富士山に登る人は八王子にいた。

b) 富士山に登った人は八王子にいた。